

【実施主体】株式会社 建設技術研究所,ミドリク(MiDriq)NbS株式会社
官民連携で実現する秩父の森の新たな価値創造（導入検討先自治体：埼玉県秩父市）

①調査概要

調査の目的、内容：本提案は埼玉県秩父市の森林を対象に、先端技術やデジタル技術を活用した多面的機能の可視化の試行を通じて、人口や地域経済の縮小、まち・ひと・しごとの創出・好循環を実現する、流域治水の深化とカーボンニュートラルやグリーンインフラを活用した自立・分散型の持続可能な社会構築に向けた新たなスキームを検討する。

調査により解決した課題等：新技術活用で得られる「森林の価値」データを管理・活用することで、地域活性化に資する官民連携の事業やスキームを通じて、秩父市のこれまでの取り組みをさらに発展させることを目指している。

②実施方針・フロー

- 調査1 河川・環境・官民連携分野の専門技術者からなるチームを編成し、データ収集や実態調査（職員を対象としたヒアリング調査、現場同行等）による地域課題の深堀り
- 調査2 森林の現在の価値を見える化するための試行を通じた、新技術の適用性や活用の効果の検証
- 調査3 事業の担い手となる民間事業者を対象とした官民対話、サウンディング調査を通じてA～Eスキームに関する事業可能性や参画意向、事業条件の明確化の調査／座組の検討

③自治体概要

- 秩父市（人口5.6万人／2025年）は荒川水系の水源のほか、4つのダムと広大な森林を有しており、荒川流域内の安全、安心を支える要衝といえる。
- 市内の森林整備や河川管理の現状は、高齢化や担い手不足が深刻化している。
- 秩父市では、県下で最も早く「ゼロカーボンシティ」を表明するとともに、先端技術やデジタル技術を活用したまちづくりを推進し、人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環社会の構築に向けて、積極的に取り組んでいる。
- 森林・河川の多面的価値を可視化し、広く地域住民や世間に関心・理解をもってもらうようにし、調査から得られるデータを管理・活用することで、地域活性化に資する官民連携の事業やスキームを通じて、秩父市のこれまでの取り組みをさらに発展させることを目指している。

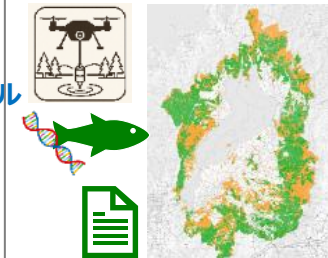
④スキームの概要

持続可能なグリーン社会



新技術活用

- ◆ 森林計測/解析
 - ・ デジタルツイン
- ◆ 森林効果の可視化（水循環解析モデル）
- ◆ 生物多様性の計測（環境DNA）



官と民の協働（持続可能なグリーン社会実現スキーム）

- A 森林由来の炭素貯留ポテンシャル可視化&J-クレジット代理事業
- B 森林を対象とした環境型ふるさと納税／企業の非財務情報開示等の支援
- C 森林価値を活かした滞在型ワーケーションエリア運営支援
- D 森林をフィールドにした環境教育コンテンツの域内・域外への展開
- E 森林整備×域外住民参加の整備ツアー